

## 「受け取る「利他」」は本当なのか？

1. 日 時 令和7年11月14日(金) 1校時(9:00~9:50)  
場 所 大野東中学校 視聴覚室

2. 学年・組 第3学年3組(男子16名 女子20名 計36名)

## 3. 単 元 観

本単元は、中学校学習指導要領(平成29年告示)国語第3学年[思考力・判断力・表現力等]C読むこと(1)イ「文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること。」の内容を受けて設定している。

「受け取る「利他」」は、「利他とは何か」について考えをめぐらせた批評文である。筆者が実際に体験したことなどを具体例として示しながら結論を導き出しており、明快な展開であるため、内容を捉えやすい。加えて文章の展開を整理したり、自らの知識や経験と照らし合わせたりしながら読むことで、浮かび上がる気付きや疑問をもとに文章を批判的に読む学習も行うことができる教材である。

## 4. 生 徒 観

本学級の生徒は、第1学年時から国語の学習に前向きに取り組んでいる。令和7年4月に行われた全国学力・学習状況調査では「国語の勉強は好きですか」という質問に対して肯定的回答をした生徒が78.1%、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問に肯定的回答をした生徒が89.5%であった。しかし、事前に行ったアンケートにおいて「説明文の学習が好きですか」という質問に肯定的回答をした生徒は41.2%と全体的に苦手意識が強く、説明的な文章の学習自体に意欲をもって取り組むことが難しい状況である。また、「説明文を読むときに、筆者の主張と根拠のつながりや正しさを吟味していますか」という項目に肯定的回答をした生徒は70.6%であり、約30%の生徒は文章を批判的に読む視点を持っていないことが分かる。そのため、本文が比較的短く内容も明快である本教材を使って説明文に対する苦手意識を取り除き、文章に表れているものの見方や考え方について、自分の知識や経験などと照らし合わせて、納得や共感ができるか否かなどを考える視点を身に付けさせたい。

また、前述の全国学力・学習状況調査において「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」問題の正答率は43.1%、「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える」問題の正答率は26.5%と、学力面では大きな課題がみられる。そのため、文章中で述べられている主張と根拠の関係や根拠の妥当性を吟味しながら読む力を育成していく必要がある。

## 5. 指 導 観

本単元では、「文章を批判的に読み、文章に表れているものの見方や考え方について考える」力の育成を目指して、次のような指導の工夫を行う。

(1) 文章を対象化し、吟味したり検討したりして自分の考えを深めるために、納得した一文と疑問を感じた一文を選び、自分の考えを深める。

・本文の中で納得した一文と、疑問を感じた一文を選ばせ、その理由を書かせる。その際、事例は対

象外とし、それ以外の筆者の考えが書かれた部分から選ばせるようにする。

- ・選んだ一文をクラスで交流し、納得した文にはあてはまる例や、疑問を感じた文にあてはまらない例を考えさせながら筆者の主張を吟味し、考えを深めさせる。

※なお、疑問や反論は自由に出させるが、「批判的に読む」＝「粗探しをする」ということではないことは単元の中で押さえておく。

(2) 全ての生徒が、主体的に学びに向かい資質・能力を身に付けられるように、「書評を書く」という言語活動を設定する。

- ・最終的な自分の考えを「書評」としてまとめさせる。その際「筆者の考えのどの部分に納得ができたか（できなかったか）」「利他について自分はどのように考えるか」を書かせる。
- ・書評には☆1～☆5で納得度を示させる。また、納得度は最終的に作成する書評のみではなく、毎時間の学習の振り返りの際に記録させる。自分の考えを数値として表すことで整理したり、クラスメイトとお互いの考えを交流する際の材料にしたりしたい。

(3) ICT 機器を活用して考えを共有したり、整理したりする。

- ・スプレッドシートでお互いの考えを確認し、自分と同じ考えの人や違う考えの人と交流をさせる。
- ・筆者の主張を吟味する際には、生成 AI を活用しながら、さまざまな場面での事例を考えさせる。
- ・書評はドキュメントを使って A4 1 枚にまとめさせる。出来上がった書評はクラスルーム上で共有し、学年内で読み合わせる。

## 6. 単元の目標と評価規準

### 〈単元の目標〉

- 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。

[知識及び技能 (2) ア]

- 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。

[思考力、判断力、表現力等 C 読むこと (1) イ]

- 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。

[学びに向かう力、人間性等]

### 【本単元における言語活動】

筆者の主張と根拠を吟味し、「受け取る「利他」」の書評を書く。

### 〈評価規準〉

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○具体と抽象など情報と情報の関係について理解を深めている。((2) ア)	○「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。 (C (1) イ)	○粘り強く文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考え、学習の見通しを持って書評を書こうとしている。

〈「おおむね満足できる」状況（B）について〉

次の①～③を満たすもの

- ①筆者の考えのどの部分に〈納得できたか／納得できなかったか〉について理由を示して書いている。
- ②本文を引用している。
- ③自分の考えを、知識や経験等と結び付けて説明している。

納得度 ★★★★★

「受け取る『利他』」は、二つの事例をもとに、筆者が「利他」に関する考えを述べている。そのうち筆者の中学生時代の恩師との事例から述べられた「受け手が相手の行為を「利他」として認識し、受け取るのは、その行為のありがたさに気付いたときであり、発信と受信の間にはタイムラグがあるのです。」という主張に私は納得ができなかった。たとえ相手が気付かなかったり、受け取らなかつたりしても、与え手が「自分のことよりも、他人の利益や幸福を優先して行動を起こし、実際受け手に利益が出ていること」は「利他」だと思う。筆者が挙げた二つ目の事例では、たとえ筆者がそのありがたみに気付いていなくても、先生からの一言がきっかけで、今の研究スタイルができたという時点で「利他」は起動していると思う。私の家でも、弟が小さいころストーブに近づいているの母親が強く叱って止めたことがある。幼い弟は状況がわからず泣いていたが、母親が弟を止めたのは間違いなく「利他」の心だっただろう。そのため、「利他」が発生するタイミングは場合によって変化し、受け取った時のこともあれば、与えた時のこともあるのだと考えた。

一方で「『利他』と『利己』」。この両者は、反対語というよりも、どうもメビウスの輪のようにつながっているもののようです。という一文には納得ができる。今回、授業を通して「利他」と「利己」について考えてみて、それを見分けることは非常に難しいことであると感じた。だから簡単に決めつけるのではなく、筆者のように受け手の立場に立って考えるなど様々な視点で行動を振り返ることが必要だと思った。

## 7. 指導と評価の計画（全8時間）

次	学習活動	指導上の留意点	観点			評価 評価規準【評価方法】
			知	思	態	
1	単元のゴールを知り、学習の見通しをもつ。  ・説明的な文章を批判的に読み、単元の最後に「受け取る『利他』」の書評を書くことを知る。 ・「『利己』と『利他』」を読み、どのような行動が「利他」と捉えられるのかを考えさせる。  (1時間)	・「利己」や「利他」は与え手の行動によって判断されていることを理解させる。				

2	本文を通読し、文章の構成と筆者の主張・根拠を捉える。					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を通読し、①納得した文②疑問を感じた文③よく分からなかった文に線を引く。</li> <li>・文章の構成を捉える。</li> <li>・「利他」に関する二つの主張と根拠を捉え、結び付きが妥当か考える。</li> </ul> <p>(2時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形式段落を確認したのち、本文を四つの大きなまとまりに分けさせる。</li> <li>・筆者が事例からどのような主張を導いているのか確認させる。</li> </ul>	○			<p>具体と抽象など情報と情報の関係について理解を深めることができる。((2)ア)</p> <p>【ワークシート】</p>
3	本文の内容を吟味する。					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・納得した一文と疑問を感じた一文を選び、その理由を書く。</li> <li>・同じ意見の人や全く違う意見の人と交流し、考えを深める。</li> <li>・学級内で出た疑問を感じた一文をもとに、筆者の主張や考えの妥当性について吟味する。</li> </ul> <p>(3時間 本時2/3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の主張にあてはまらない例はないか考えさせる。その際、生成 AI を活用しながら、さまざまな視点から考えられるようにする。</li> <li>・根拠を示して自分の考えをもつことを目的としてクラスで話し合いを行わせる。</li> </ul>	○			<p>「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(C (1)イ)</p> <p>【ワークシート・スライド】</p>
4	書評を書く。					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを「書評」としてまとめる。</li> <li>・単元のまとめ・振り返りを行う。(2時間)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書評は「筆者の考えのどの部分に納得ができたか/できなかったか」について考えさせる。その際、本文を引用しながら書かせる。</li> <li>・書評には☆1～☆5で最終的な納得度を示させる。</li> <li>・この作品を読んで考えたことを踏まえて、「これからどんな風に人と関わっていきたいか」について書かせる。</li> </ul>			○	<p>粘り強く文章を吟味し、学習の見通しを持って書評を書くことができる。</p> <p>※第3次と第4次のワークシート等を基に総合的に評価する。</p> <p>【ワークシート】</p>

## 8. 本時の学習

### (1) 本時の目標

「疑問を感じた一文」に対する自分の考えを説明することができる。

### (2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項	思考の流れ	評価基準 (評価方法)
1. 本時の流れとめあてを確認する。(5分)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の内容を振り返り、本時の流れを確認する。</li> <li>・本時の流れとめあてを確認する。</li> </ul>			
めあて:「疑問を感じた一文」に対する自分の考えを説明することができる。			
2. 学級内で意見を交流する。(10分)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と同じ文を選んだ人、全く違う文を選んだ人と意見を交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スプレッドシートに入力した内容をもとに、学級内で自由に交流をさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こういう考え方もあるのか。自分とは違うけれど、新しい気づきがもらえた。</li> </ul>	
3. 本文の内容の妥当性を吟味する。(30分)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの人が「疑問を感じた一文」について妥当性を吟味する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒から出る疑問を積極的に取り上げて全体で検討させる。</li> <li>・受け手が受け取れない場合や、利他が起動するタイミングについて考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受け手が受け取れない場合は、絶対に「利他」にはならないのかな。</li> <li>・確かにあてはまらない例もあるが、全体を見ると、当てはまる例の方が多いな。</li> </ul>	<p>「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(C(1)イ)</p> <p>※なお、次時と合わせて総合的に評価する。</p> <p>【ワークシート・スライド】</p>
4. 本時の振り返りを行う。(5分)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内で検討した「疑問を感じた一文」に対する自分の考えをまとめる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなの考えを聞いて、納得[できる/できない]と思った。</li> </ul>	